

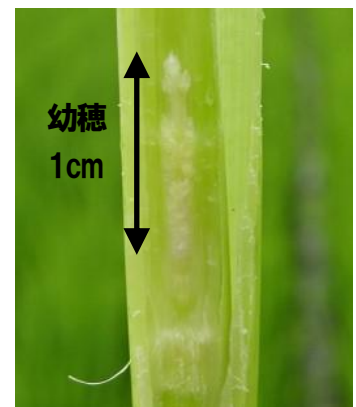
コシヒカリの穂肥は幼穂 1cm が目安！ ～「出穂期」に向けて湛水管理と いもち病、カメムシ対策を万全に！～

1. 穂肥の時期と量

【穂肥施用日の目安(速効性肥料の場合)】

田植時期	地帯	1回目	2回目	出穂期 見込み
5月上旬植	湖辺平坦	7月10日	7月24日	7月28日
	中山間	7月14日	7月21日	8月1日

- ・穂肥の基準施用量は1回目、2回目ともに窒素成分で2kg/10a。
- ・1回目は出穂18日前(幼穂1cm)、2回目は中山間で出穂11日前、湖辺平坦で出穂4日前に施用しましょう。
- ・有機質肥料の場合は、肥効が出るまでに時間がかかるので3日程度早めに施用しましょう。
- ・葉色が濃い場合(葉色板3.8以上)や過繁茂の場合は、1回目の穂肥を遅らせ、施用量も減らしましょう。



【全量基肥栽培の場合】

夏期に高温となった場合は、出穂期から穂ぞろい期に窒素成分で1～2kg/10a 追肥をしましょう。



「環境こだわり農産物」認証基準を守りましょう
化学肥料の窒素成分量4kg/10a以下！



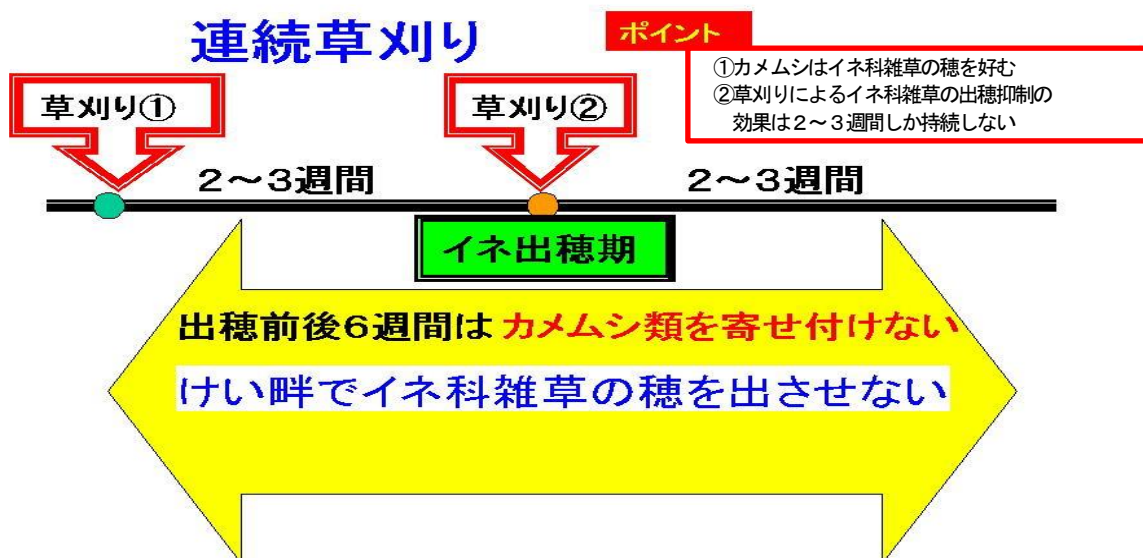
2. 穂いもち対策は出穂前から出穂期の防除で

- 本年、葉いもちの感染好適日の出現が多く、本田での発生が散見されます。葉いもちの発生ほ場では、穂いもち防除を実施しましょう。



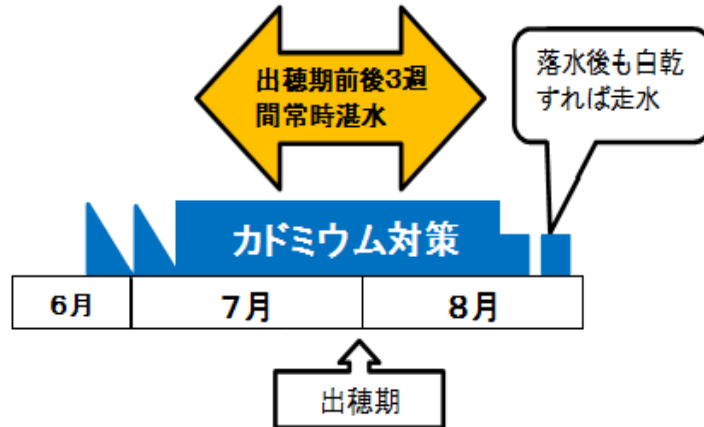
3. カメムシ対策！畦畔を2回連続草刈

- 斑点米の原因となるカメムシ類は、ヒエ等のイネ科雑草の穂を好み、畦畔に集まります。
- そこで、**イネの出穂3週間前（7月10日頃）と出穂期（7月30日頃）の2回草刈り**を行い、イネ科雑草の出穂を抑制してカメムシ類を寄せ付けないようにしましょう。



4. 出穂前後各3週間は「湛水管理」を確実に

- ・湛水管理は米の品質向上とカドミウムを吸収させないために重要です。
- ・排水口を閉じ、かけ流しをせず、田面が露出しないように管理しましょう。




※5月上中旬植での水管理のイメージ
(コシヒカリ)

《熱中症に注意:作業中は、
塩分・水分補給と適度な休憩を！！》

～農業情報の配信について～

しらせるしがの安全・安心情報
しらがメール 
しらがLINE 


- 滋賀県では、「防災・犯罪等の情報をはじめとする滋賀の安全・安心のための情報やイベントの案内など」をご希望の方へ電子メールまたはLINEで配信しています。
- 台風等の気象災害や、病害虫の発生が懸念される際に農業技術情報や農業に関するイベントの案内など農業者向けの情報も配信しています。農業に関するタイムリーな情報収集手段の一つとして、是非ご利用ください。
- 詳しいサービスの説明、ご利用上の注意および利用規約は下記の滋賀県ホームページをご覧ください。

滋賀県ホームページアドレス  <http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/ict/11688.html>

【農業情報を「しらがLINE」で受信する場合】



下記URLから「登録手続き(変更・解除)」に進み、画面の「友だち追加」から、もしくは、左記QRコードから、「しらが」を友だち追加してください。その後、LINEメッセージに受信設定用のURLが届きますので、アクセスし、希望する情報を設定してください。農業情報を受信する場合は、「お知らせ」を受信設定後、改めて登録変更画面から「お知らせ」の中の「農業情報」を受信設定してください。

 URL : <https://www.pref.shiga-info.jp/ShiraLineWeb/service/index>